

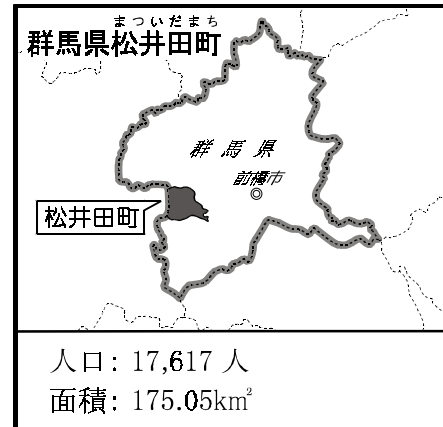
碓氷峠鉄道文化むら整備事業

- 鉄道文化・街道文化のまちづくりによる地域活性化の試み -

1. 背景と経緯

松井田町は県西端に位置し、碓氷峠を介して長野県の軽井沢町と接している。江戸時代以前には東山道や中山道が通過し、碓氷峠に関所が置かれ、松井田・坂本の両宿を中心に交通の要衝として発展してきた。

明治時代に入ると鉄道交通網が発達し始め、明治26(1897)年には信越本線最後の難関、横川 - 軽井沢間の約12kmが開通した。この区間では、66.7%¹という国内最大の急勾配を克服するためのアプト式²機関



車の導入(1897年)煉瓦造りのアーチ式橋としては国内最古の碓氷第3橋梁(めがね橋)の整備(1892年)丸山変電所の整備による国内最初の電化(1912年)国産第1号の電気機関車の配置(1919年)など、各時代における最高水準の鉄道技術が注がれてきた。

このように日本の鉄道技術史において特別な位置を占めて来たJR信越本線横川 - 軽井沢間であったが、平成9年(1997)年10月1日の長野新幹線の供用開始に伴い、同年9月末日に廃止されることが決定された。

鉄道の廃止により、住民の間に「町の過疎化がさらに進むのではないか」「将来的に横川・高崎間も廃止になったら町民の生活はどうか」といった危惧が広まった。

こうした事情を受け、町では平成8(1996)年から横川 - 軽井沢間の地域活性化に向けた「横川・軽井沢間周辺整備等推進計画」の策定に着手した。策定にあたり、町では県や軽井沢町とも協議を重ねつつ、各種調査や地域懇談会などにより町民参加で案を練り、推進計画に関して町民から具体的なアイデアを募集したところ、町特有の地域資源である鉄道を活用した何かができないかというアイデアも少なからず提示された。

そうした検討を経て、計画の骨子となる「横川・軽井沢間周辺整備基本構想」が策定された。ここでは「鉄道文化・街道文化をまちづくりに」をテーマとして、「生きがいと誇りの持てる定住社会の創造」「交流人口の増加を通じた地域の活性化」の二つの目標を掲げ、その実現のための具体的な方法として「横川駅周辺」「旧丸山変電所周辺」「坂本地区」「横川SA周辺」の4大拠点づくりとそのネットワーク化が掲げられた。

¹ 水平距離1,000mに対し66.7mの垂直距離を持つ勾配。角度で表せば、約3.82度となる。

² 通常の2本のレールの間にラックレールという鋸状のレールを敷き、機関車底部に設けた歯車の動輪を噛み合わせて急勾配を登る方式のこと。現在、日本国内では大井川鉄道のみで採用されている。

横川駅周辺の整備の一環として、地域資源である鉄道を活用して平成 11 (1999) 年 4 月にオープンしたテーマパーク「碓氷峠鉄道文化むら」(愛称 : 碓氷峠ポッポタウン) は、本構想における目玉の一つとなっている。

2 . 具体的内容と特色

鉄道文化むらは、JR 信越本線横川 - 軽井沢間の廃止により始発駅となった横川駅に隣接して整備された。敷地は、鉄道基地となっていた横川運転区用地、横川・軽井沢間の本線敷の一部、旧国鉄の宿舎跡地などを用いた約 4.5ha で、町内にある上信越自動車道松井田妙義 IC からは 10 分の距離にある。園内の主な観光施設は、以下の通りである。

種類	主な施設の名称	内容
展示施設	鉄道車両の屋外展示スペース	蒸気機関車、電気機関車、ディーゼル車、寝台車、食堂車、貨物車、ラッセル車、操重車などの歴史的車両の展示。一部車両は内部を公開。
	鉄道展示館	廃線時まで使われていた検修車庫を当時のまま公開。アプト式機関車を始め、数台の車両も庫内に展示し、一部車両は内部を公開。
	鉄道資料館	横川運転区の運転区建物を利用。信越本線横川 - 軽井沢間の歴史資料を展示。鉄道模型コーナー、パソコンの Q & A コーナー、土産物店もあり。
体験施設	シミュレーター	E F 6 3 型電気機関車のシミュレーター、および実際に JR で使用されていた特急あさま号の訓練用シミュレーター。
	ミニ S L	小型の蒸気機関車で屋外展示場を一周する。
	蒸気機関車「あぶとくん」	英国製の蒸気機関車 (軌道幅 610mm) が定員 68 名の客車を牽引し園内を一周する。
	E F 6 3 型機関車運転体験コース	園内の旧信越本線廃線区間約 300m で、碓氷峠専用車である E F 6 3 型電気機関車の実車体験運転が出来る。要予約。
その他	休憩所	お座敷列車を休憩所として公開。
	峠の横丁 (物産館「麻苧茶屋」)	食堂と売店の集合店舗。

園内では、運転区と検収庫の利用や線路を一部残した舗装などにより、鉄道の施設と鉄道基地のイメージを活用し、視覚や聴覚での疑似体験、「触る」「動かす」という実体験を通じ、鉄道を体験できる広場として整備することが心掛けられている。

そうしたコンセプトの具体化されたものの一つに、碓氷峠専用車である E F 6 3 型電気機関車の体験運転がある。アプト式から粘着運転方式³に移行した昭和 38 (1963) 年以降、廃線に至るまで、この区間では急峻な峠越えに備えて E F 6 3 を補助車両として連結して使用しており、E F 6 3 はアプト式機関車と並ぶ碓氷峠の象徴である。

体験運転は予約制であり、希望者は半日にわたる学科実技講習を受け、同日行われる修

³ 車輪とレールの摩擦だけで運転する、最も一般的な鉄道方式。あまり急な斜面は登れず、廃止された旧信越本線横川 - 軽井沢間の 66.7%程度が限界である。

了試験に合格すれば、翌日以降に E F 6 3 の運転を体験することが出来る。学科講習の講師ならびに主任機関士は、E F 6 3 の元機関士が務めている。学科実技講習受講料 30,000 円、300m 区間往復の約 30 分の体験運転 1 回あたり 5,000 円（初回）という値段は決して一般観光客向けとは言えないが、機関車の体験運転は全国的にも他に例が無く、鉄道ファンにとっては人気の企画である。

展示品については民間にも提供を依頼したが、特に車両関係では J R 東日本旅客鉄道株式会社の全面的な協力を得ている。また、「あぶとくん」も含めた車両整備や E F 6 3 の体験運転の添乗指導などは、J R 系列の会社に委託している。

園内の売店 3 店舗のうち、1 店舗は財団、2 店舗は地元業者が経営している。また、旧信越本線を挟み鉄道文化むらに隣接して物産館「峠の横丁（愛称：麻苧茶屋^{あさおぢや}）」を町で整備し、横川商店連盟で結成された麻苧茶屋出店会が経営している。

事業費は約 21 億円で、その内訳は「特定地域における若者定住促進等緊急プロジェクト（地域総合整備事業債：旧自治省）」約 17 億円、「信越本線横川駅周辺整備事業補助金（群馬県補助金）」約 3 億 6,000 万円、一般財源約 4,000 万円である。

管理主体は、財団法人碓氷峠交流記念財団である。この財団は、碓氷峠の歴史文化を保存、普及するために町が主体となって平成 11（1999）年 3 月に設立したもので、町の観光協会、商工会、農協、銀行や信用組合などが参画している。理事長は町助役が兼務しており、町から 3 名の職員が派遣されている。

3 . 成果と効果

開設前、鉄道文化むらには年間 10 万人の入込が期待されたが、初年度は予想を上回る 29 万 5,005 人もの入り込みがあり、町への観光総入込は前年度に比べ 7 倍の 35 万人を記録した。その後も鉄道文化むらへの入込はさほど衰えを見せず、平成 12（2000）年度には 18 万 5,420 人、平成 13（2001）年度にも 18 万 9,236 人の入り込みがあった。

推進計画により、町では坂本地区の拠点施設として、鉄道文化むらに匹敵する集客規模を持つ集客施設「碓氷峠の森公園交流館峠の湯」（2001 年 4 月オープン）を整備した。鉄道文化むらへの客層は、現時点では壮年・熟年者が目立つ峠の湯の温泉客とは異なり、小さい子どもがいる家族連れや鉄道ファンが多い。

鉄道文化むらや峠の湯の整備に伴い、町には新たな雇用の場も生まれている。財団では、管理下にある鉄道文化むらに 15 名、峠の湯に 7 名の嘱託職員を採用している。また、その他にも管理運営業務の一部を民間に委託していることから両施設に関わる業者 3 社で 55 名の雇用が発生している。両施設の売店には約 60 の仕入れ業者が参入しており、この中には大手も含む町外の業者も多くみられるが、全体の 4 割は町内の業者が占めている。

また、財団では「碓氷峠鉄道文化むらファンクラブ(友の会)」を設立している。ファンクラブは、定期的に鉄道文化むらを訪れ、園内美化や展示車両の洗車などのボランティア活動を行っている。また、鉄道ファン有志により鉄道文化むらを支援するホームページ「碓氷峠C L U B 6 6 7(旧称:碓氷峠鉄道文化むら応援団)」が運営されており、鉄道文化むらへの支援活動は全国の鉄道ファンの交流の場ともなっている。その他、旧国鉄OBなど鉄道関係者数名がボランティアの園内ガイドとして来園している。

C L U B 6 6 7のホームページの掲示板には、来園者のコメントが数多く寄せられているが、「満足した」という趣旨の意見のみではなく、「～にがっかりした」「～をこうすればもっと良くなる」という意見もかなり多く、鉄道文化むらに対する来場者の関心の高さが窺われる。また、住民の評価には「良くやっている」という趣旨のものが多いが、施設の性格上、認知度は高いものの町民の利用は少ないようである。ただし、学校や保育園などでの利用は見られる。

4. 問題点と対応策

長引く不況の影響もあり、入園者の購買意欲は落ち込んでいる。園内には屋外で食べる軽食しか販売しておらず、食堂を望む声もあるが、若い家族連れを中心とした入園者の多くは食事代を安く済ませる工夫をし、無駄な出費は極力押さえているようである。中学生以上500円という入場料についても、少し割高な感じがするという声がみられる。

峠の横丁には売店の他に食堂もあるが、鉄道文化むらとは旧信越本線の下をくぐるトンネルで結ばれており、必ずしも来園者が入りやすい位置にはない。また、峠の横丁の中には地元農産物の直売や梅ジャムなどの特産品の開発・販売を行っている店舗もあるが、観光客の消費が低下している中で、それらの店舗の経営も決して楽な状況ではない。

平成13(2001)年度の実績で見ると、年間を通じて一月あたり1~2万人の入り込みがある峠の湯と異なり、鉄道文化むらの場合は8月の35,000人から12月の4,500人まで、入り込みの月較差が大きい。冬期に入り込みが減少する理由の一つとして、元々風が冷たい土地柄である上、東側に向かって開けた谷の奥に位置するという地形の関係で午後は早くから日陰となってしまうことなどが挙げられる。

旧国鉄OBボランティアの園内ガイドは、体験に基づく語りが入園者の間で好評を博している。しかし、彼らの活動は土日が中心であるため、平日入園者の期待には必ずしも応えられていない。また、高齢でもあり人前で話をするのが苦手というOBも多い。そのため、今後はボランティアガイドのさらなる育成が望まれている。

また、オープン当初は良識の無い一部の鉄道マニアによるプレートやマーク、部品類の盗難事件や物品破損事件が頻発し、中には展示車両の扉をバーナーで焼き切って持ち去っ

たり、扉を破って運転台装置を丸ごと持ち去るなどといった過激な犯行もみられた。

事態を重く見た鉄道文化むらでは、警察署への被害届の提出、防犯装置の増設、夜間巡回警備の強化、展示車両の移動などの対策を講じた。松井田署が全国規模の捜査を行った結果、犯人2名が逮捕されたこともあり、現在は大きな事件は無くなっている。

5 . 今後の展望

現在までのところ、鉄道文化むらの整備を始めとした推進計画における一連の事業は地域振興に一定の成果を挙げているといえる。国内観光が低迷している昨今においては、観光客のニーズに合ったサービスの提供を基本とした、より堅実な経営が求められる。

4大拠点の整備とともに、そのネットワーク化も重要な課題である。平成13(2001)年4月には、町民から出されたアイデアを元に、旧信越線上り線のうち約5kmの区間を活用した遊歩道「遊歩道アプトの道」が供用され、横川駅から鉄道文化むら、碓氷関所跡、丸山変電所跡、峠の湯、めがね橋など町内の主要観光地が結ばれることとなった。

アプトの道が整備されて間もないこともあり、現在のところ町内の複数の観光地を巡る観光客は必ずしも多くはないが、回遊性を高め、観光客に長く滞在して貰うためには、4大拠点を結ぶネットワークのさらなる整備が求められる。そのため、町では平成13年度末現在、廃線当時のまま残っている下り線を活用し、横川駅から峠の湯までの観光用トロッコ列車を運行するための調査を行っている。

展示内容やその解説の充実と共に、イベントについても絶えず新たな企画を提示していくことが求められ、JRとのイベントの共催など、今後とも力を入れて取り組む方針である。また、入りやすい入場料金の設定も課題であり、現在、入場料の冬季割引や、トロッコ列車を用いた峠の湯とのセット価格の設定なども検討されている。

町担当課としては、鉄道文化むらおよび峠の湯の施設づくりについて、単なる公共施設の整備ではなく地域振興の核づくりという観点から評価した場合、今なお目標達成の道半ばであると認識しており、交流人口の増大による地域の活性化をさらに推進していきたいという意向を持っている。



蒸気機関車あぶとくん

運転時刻
午前 10:30-11:00-11:30-12:00
午後 13:30-14:00-14:30-15:00-
15:30-16:00-16:10
※は3月1日～10月31日までの運転時刻です。
高台の駅に停車します。

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

ミニSL

運転時刻
午前 10:30-12:00は10分間隔運行
午後 12:30-16:10は15分間隔運行
乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須



「EF63形機関車」

運転時刻
午前 10:30-12:00は10分間隔運行
午後 12:30-16:10は15分間隔運行
乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料

乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料

乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料

運転時刻
平日 10:30-11:30-12:30-
13:30-15:00
土曜・休日 10:30-11:30-
13:00-14:00-15:00-16:00
※は3月1日～10月31日までの運転時刻です。

パッチリカー

定額乗車券
パッチリカー 100円
定額乗車券(1回) 100円
定額乗車券(1回) 100円
レール式走行型(1回) 200円
メロナーベント 200円

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

手ごぎトロロコ

乗車料
小学生以上 1回 100円
4歳以上小学生まで 1回 50円
3歳以下 無料

ファミリー列車

乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須



乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

シミュレーター体験コーナー

乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料

乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料

乗車料
小学生以上 1回 200円
4歳以上小学生まで 1回 100円
3歳以下 無料



碓氷峠鉄道文化むら

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

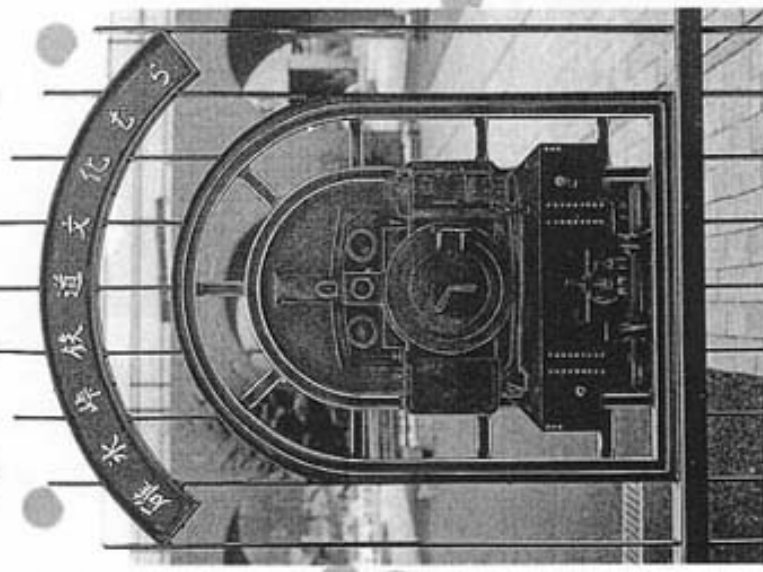
乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須

乗車料
小学生以上 1回 400円
4歳以上小学生まで 1回 200円
3歳以下 無料
※小学生未満は大人同伴必須



小さなお子様から
鉄道ファンまで
みんな楽しんでます

見て、触れて、体験できる峠と鉄道の歴史。
碓氷峠鉄道文化むら



Home Page: <http://www.usuitouge.com>
E-mail: bunkamura@usuitouge.com

碓氷峠鉄道文化むら (財) 碓氷峠交流記念財団
〒379-0301 群馬県碓氷郡松井町横川407-16
TEL027-380-4163 FAX027-380-4111

本物の機関車の運転体験

